

昨年のスイス・サンモリッツのレースでのヤンマーレーシング。このレースは4人乗りの小型艇で行われた。右端がピーター・ギルモア選手、右から2人目が谷路泰博選手 (Photo by Loris Von Siebenthal)

YANMAR Racing、WMRT参戦2年目に突入 ピーター・ギルモア 健在

アメリカズカップに挑戦したニッポンチャレンジのスキッパーとしてその名は日本のセーラーにはおなじみのピーター・ギルモア。彼は1996年のチーム結成以来、マッチレースの世界ツアーで4度も世界チャンピオンに輝いているが、2009年からヤンマーのサポートを得て、YANMAR Racingとして活動を進化させている。クルーの、これまたおなじみの日本人セーラー谷路泰博と固い絆で結ばれ、2010年シーズンも4月のMatch Race Franceを皮切りにWorld Match Racing Tour (ワールドマッチレーシングツアー、以下 WMRT)に参戦している。

WMRT (ワールドマッチレースツアー)とは
2000年から始まったマッチレースのプロレーシングツアー。2010年度は10イベントが予定されており、年間のチャンピオンを決定する国際大会。

2010 WMRT開催予定

Match Race France	4月 6日 - 11日
Match Race Germany	5月 19日 - 24日
Korea Match Cup	6月 8日 - 13日
Portimao Portugal Match Cup	6月 22日 - 27日
STENA Match Cup Sweden	7月 5日 - 11日
St Moritz Match Race	8月 31日 - 9月 5日
Danish Open	9月 8日 - 2日
Vietnam Match Cup	9月 21日 - 26日
Argo Group Gold Cup	10月 4日 - 10日
Monsoon Cup	11月 30日 - 12月 5日



昨年は総合4位

2009年、ヤンマーレーシングはツアー5戦目の Match Cup Sweden で優勝した。このレースは参加チームが16チームと多く、それだけにレベルも高く、また絶壁に囲まれたレース海域も風が複雑に変化しユニック、しかも観客の多いことで知られており、その独特の雰囲気の中で優勝を果たしたことは価値が高い。このレースを含めて年間9戦中8戦を戦い、ヤンマーレーシングは昨年、総合成績4位となっている。

クルーとしてピットマンを務める谷路選手は、長年、ピーターと共にチームを牽引しているが、「負けたレースほど勉強になる」というのが口癖。その言葉どおり2010年に向けては、「負けたレースのビデオを見直し、改善点を分析することで調整点が見えてきます」とキツパリ。今シーズンはより高いポジションを目指すという。

同チームの広報も担当する谷路選手によると、ヤンマーレーシングは昨年のツアーの中では一番のベテランチームということ、若いセーラーの多い最近のツアーのなかでは風格さえ漂う存在になっている。が、

レースになれば年齢差はない。

また、昨年はツアーの中でクルーの入れ替えが何度かあったそうだ。しかし、全員がプロフェッショナル・セーラーであり技術的には問題なく、そのような状況のなかクルーをまとめることはピーター・ギルモアのもっとも得意とするところ。緊張が長く続くレースシーンにあつて、オフとオンを巧みに使い分けるピーターのチームづくりの手腕は、さまざまなタイプのベテランクルーのテクニクをさらに引き出すこととなる。

同チームのもうひとつの特徴はクルー構成が多国籍であるところ。いろんな国の人間が小さな船に集まることはコミュニケーションという観点からは難しいのかと思うが、この点においてもアメリカズカップ挑戦当時、「私が日本人になり切る！」といつてニッポンチャレンジに飛び込んできたピーターの面目躍如。異国のチームにすら人なりとなじみ、ニッポンチャレンジの實力を引き出した彼の能力は、W MRTにおいても異なる国籍のクルーたちをひとつにまとめ上げるのに遺憾なく発揮されているという。谷路選手も、さまざまなバックグ

ラウンドを持つクルー全員でひとつの目標をなしたとげたときの達成感には素晴らしいものがあり、それが国境の無いグローバルチーム、ヤンマーレーシングの強味にもなっている、と言う。

2010年度は始まったばかり

ピーターは今シーズンを前にして、「2010年はヤンマーレーシングとして2年目にあたり、非常に重要な年。というのもチーム発足から3年でツアーチャンピオンになる目標を掲げている。1年目は惜しくも4位だったが2年目は更なる上位を目指し、そして3年目を計画通り迎えたい」と語り、ツアーチャンピオンに振り返り、とを目標としている。

さらに、「ひとつの成功は次の成功につながる。この非常にシンプルな考えの下に戦いたい。最高のコンディションで最高のパフォーマンスを発揮すれば、そのエネルギーは連鎖反応を起こす。これがスポーツの力だと思ふ。人は集団で何かをするのが好きな生き物で、スポーツには人と人とを結びつける力がある。スポーツの持つこの力は、他のどんなものより強いと思ふ。チームの

一メンバーとして私の目標もシンプルであり、このスポーツの力を信じ、スキッパーとしてチームを率いていきたい」と、セーリングというスポーツの力をピーターならではの言葉でうまく表現している。

ヤンマーレーシングは2010年シーズンの初戦の Match Race France (4月) は11位、2戦目の Match Race Germany (5月) は6位にとどまった。若い世代が台頭し始めているマッチレースの世界で常勝するのは難しいが、彼らと対戦することでベテランチームはさらにその円熟味を増していくはず。

マッチレースの最高峰であるアメリカズカップの迷走も一段落し、新たなレースフォーラムが年内にも発表される予定の今、グランプリレベルのマッチレースは再び注目を浴びそうな様子だ。この機を捉え、W MRTに新たな若手の登場や、ベテラン勢の再参入も予想される。

この後W MRTは6月の韓国、ポルトガル、7月のスウェーデンとレースは続くが、ヤンマーレーシングの目標はどのように達成されるのか、ピーター・ギルモアの手腕に注目したい。



ヤンマーレーシングのベースクルー。左からテリー・デュラード(フランス)、谷路泰博、ピーター・ギルモア(オーストラリア)、マーティン・バーンソン(スウェーデン)。ここに、早福和彦とキャメロン・ダン(ニュージーランド)が加わる